

計画期間
令和3年度～令和12年度

大空町酪農・肉用牛生産近代化計画書

令和4年1月

北海道網走郡大空町

目 次

I	酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針	…	1～3
1	大空町における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢と基本的な方向		1
2	経営対策の強化に向けた対応方向		2～3
II	生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標	…	4～5
1	生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標	…	4
2	肉用牛の飼養頭数の目標	…	5
III	酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標	…	6～8
1	酪農経営方式	…	6
2	肉用牛経営方式	…	7～8
IV	乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大のための措置	…	9～10
1	乳牛（乳肉複合経営を含む）	…	9
2	肉用牛	…	10
V	飼料の自給率の向上に関する事項	…	11
1	飼料の自給率の向上	…	11
2	具体的措置	…	11
VI	生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置	…	12
1	集送乳の合理化	…	12
2	肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置	…	12
VII	その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項	…	12

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

1 大空町における酪農及び肉用牛生産をめぐる情勢と基本的な方向

大空町は、北海道網走地方中部に位置し、総面積344km²、人口6,693人（令和3年1月1日現在）で、南に屈斜路湖を望む展望が広がる標高1,000mの藻琴山がそびえ、北に豊富な水産資源に恵まれた網走湖が広がる農業を基幹産業とする町です。

町の中央部は麦類・馬鈴薯・てん菜等の寒冷作物を中心とした畑作地帯、西部は国内最北の稲作地帯、南部は藻琴山山麓の高原を中心とした酪農地帯となっており、様々な作目と多様な形態を持つ農業経営が展開されています。

本町の酪農については、各種補助事業を導入して草地基盤整備や施設の近代化による規模拡大を順調に進めて、本町農業の基幹作目の一つとして位置付けされています。町内では乳製品の加工も行っており、生産された乳製品は本町の特産物として本町の経済活動に必要な資源となっています。

肉用牛については、水田畑作経営の補完や家畜ふん尿の堆肥還元による地力向上を目的として、肉専用種である黒毛和種繁殖や、地域内の酪農家より生産された乳用種雄仔牛等を活用した乳用種育成・肥育を耕種作目と複合的に経営している他、肉専用種（黒毛和種）肥育についても、施設整備と規模及び販路拡大によって牛肉ブランドを確立し、本町はオホーツク管内における肉用牛の一大産地としての役割を担っています。

しかし、以前より農畜産業を取り巻く情勢は厳しく、農産物の担い手の高齢化や労働力不足、輸入飼料の高止まりや鉄鋼等の資源及び資材費の高騰による生産コストの上昇、さらに地震や台風等の自然災害や気候変動による被害、新型コロナウイルス感染症(covid-19)の長期化、国内外における海外悪性伝染病の発生懸念等の問題が重なっております。

このため、より一層畜産生産基盤を維持・強化するために、牛舎等の施設や機械整備、草地更新やデントコーン等飼料生産の拡大、畜産農家の労働環境の改善や新規参入者の加入促進等による担い手確保が、重要な課題となっています。

このような状況を乗り切って、酪農肉用牛生産における今後の安定的な発展を図るために、乳牛及び肉用牛の資質改良と同時に、飼養衛生管理の強化・徹底、畜産クラスター関連事業等を活用した畜舎等の施設整備や省力的な飼養管理及び自給飼料生産に必要な高性能機械装置等の導入、哺育・育成センターへの預託及び飼料生産コントラクターやTMRセンター等の外部委託の活用を図るほか、家畜ふん尿堆肥の有効活用等によって生産効率の向上等の取組を推進していきます。

畑作・稲作とともに酪農及び肉用牛生産を本町農業の重要な作目であるため、長期的な展望を持って上記取組を含めて振興を図っていき、持続的な発展を促します。

2 経営体質の強化に向けた対応方向

(1) 酪農・肉用牛の生産基盤の強化及び収益性向上に向けた取組

ア 畜産クラスター事業等の効果的な活用

畜産クラスター事業等を活用して、牛舎等の施設整備及び機械装置等の導入を推進して、規模拡大及び効率化・省力化を図り、収益力の強化及び労働負担の軽減を図ります。

イ 外部委託機関の積極的な利活用

労働負担の軽減及び経営の効率化・省力化を図るために、公共牧場等や哺育・育成センターへの預託、酪農ヘルパーの利用、飼料生産コントラクターやTMRセンター等の外部委託の積極的な活用を図ります。

ウ 乳牛の改良促進

牛群検定の推進や優良な種雄牛精液及び受精卵の積極的な活用を図り、乳牛の資質向上を促進します。

エ 肉用牛の改良促進

町内和牛生産改良組合で生まれた優良な繁殖雌牛の地域内保留や地域外からの外部導入により、資質の向上を図ります。

また、町内肥育農家における町内産素牛の購入を促進するほか、搾乳牛の増頭に伴い、増加する乳用種雄子牛を町内で肥育することで、優良牛の地域内循環を図ります。

(2) 自給飼料基盤の強化・拡大に向けた取組

ア 草地及び飼料畑の利用集積及び草地の植生改善、優良品種の利用

草地及び飼料畑の集積を進めて効率的な利用を図るとともに、草地整備や草地改良、草地更新等の植生改善を促進していくほか、優良品種の導入により、生産性の向上を図ります。

イ 畜産クラスター事業等の効果的な活用

畜産クラスター事業等を活用して、機械装置等の導入を推進し、省力化による労働負担の軽減及び生産性の向上を図ります。

ウ 外部委託機関の積極的な利活用

飼料生産コントラクターやTMRセンターを活用により、飼料生産の省力化・効率化及び品質の安定化を図ります。

また、地域内の公共牧場等への放牧を推進して、飼料費の低減を図ります。

エ その他の取組

- ・イアコーンサイレージ等の濃厚飼料の生産を推進します。
- ・町内水田農家から生産される稲わらを、肥育用飼料として有効活用を図ります。

(3) 畜産環境対策の充実・強化

ア 家畜排せつ物処理施設の整備

飼養規模の拡大に対応するため、畜産クラスター事業等を活用により飼養規模等に応じた施設整備等を図ります。

また、老朽化した施設についても、施設補修等の事業の活用などを進めていきます。

イ 家畜排せつ物の利活用

良質な堆肥・液肥の生産や適切な施肥管理及び畜産農家と耕種農家との連携により、農地への還元を推進します。

また、堆肥センターの利活用を推進し、地域の有機質資源である原料堆肥とれき汁の有効活用及び耕畜連携による地力向上とコスト低減による土づくりを推進します。

(4) 家畜衛生対策の強化

家畜の検査や監視の徹底、家畜伝染病の診断技術の向上等により防疫体制を強化するとともに、伝染病に応じた適格かつ効率的な対策を推進するため、家畜の飼養者はもとより、地域関係者が一体となって行う家畜衛生対策の取組を支援します。

Ⅱ 生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の範囲	現在（平成30年度）					目標（令和12年度）				
		総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量	総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量
		頭	頭	頭	kg	t	頭	頭	頭	kg	t
大空町	女満別	735	526	466	8,654	4,033	620	444	400	9,750	3,900
	東藻琴	4,481	2,356	2,332	9,640	22,482	4,930	2,594	2,568	9,735	25,000
合計		5,216	2,882	2,798	9,476	26,515	5,550	3,038	2,968	9,737	28,900

(注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。

2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。

2 肉用牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の 範囲	現在（平成30年度）								目標（令和12年度）							
		肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種等			肉用牛 総頭数	肉専用種				乳用種等		
			繁殖 雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		繁殖 雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
大空町	女満別	頭 2,393	頭 1,466	頭 376	頭 551	頭 2,393	頭 0	頭 0	頭 0	頭 2,913	頭 1,763	頭 454	頭 696	頭 2,913	頭 0	頭 0	頭 0
	東藻琴	頭 2,409	頭 364	頭 1,023	頭 0	頭 1,387	頭 1,022	頭 0	頭 1,022	頭 2,887	頭 441	頭 1,228	頭 0	頭 1,669	頭 1,218	頭 0	頭 1,218
合計		4,802	1,830	1,399	551	3,780	1,022	0	1,022	5,800	2,204	1,682	696	4,582	1,218	0	1,218

- (注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。
 2. 肉専用種のその他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。
 以下、諸表において同じ。
 3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

Ⅲ 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標

1 酪農経営方式

単一経営

方式名 (特徴となる取組の概要)	経営概要						生産性指標	
	経営形態	飼養形態					牛	
		経産牛頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用 (放牧地面積)	経産牛1頭当たり乳量	更新産次
スタンション (集約放牧) 40頭	家族経営	頭	ST	ヘルパー	分離給与	(ha) 集約放牧	kg 8,000	産次 3.5
スタンション 80頭	家族経営	80	ST	ヘルパー 公共牧場	分離給与	舎飼	8,500	3.5
フリーストール ミルクパパー 120頭	家族経営	120	FM	ヘルパー 育成預託	TMR	舎飼	9,700	3.5
フリーストール ミルクパパー 150頭	家族経営	150	FM	育成預託	TMR	舎飼	9,700	3.5

生産性指標													
飼料							人						
作付体系及び単収	作付延べ面積 ※放牧利用を含む	外部化 (種類)	購入国産飼料 (種類)	飼料自給率 (国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥 利用割合	生産コスト		労働		経営		
							生乳1kg当たり 費用合計	経産牛1頭 当たり飼養 労働時間	総労働時間 (主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者 1人当たり所得
kg	ha			%	%	割	円%)	hr	hr	万円	万円	万円	万円
イネ科主体	59	コントラクター	-	80	75	10	71	104	4,144 (1,800)	3,801	2,409	1,093	546
イネ科主体	99	コントラクター	-	63	58	10	61	46	3,658 (1,800)	7,993	5,583	2,410	1,364
イネ科主体 トウモロコシ	110	TMRセンター	-	60	60	10	66	40	4,801 (2,000)	13,963	10,142	3,821	1,910
イネ科主体 トウモロコシ	132	TMRセンター	-	60	60	10	57	18	2,652 (1,800)	17,355	13,265	4,090	2,776

2 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

方式名 (特徴となる 取組の概要)	経営概要					生産性指標				
	経営 形態	飼養形態				牛				
		飼養 頭数	飼養 方式	外部化	給与 方式	放牧 利用 (放牧地 面積)	分娩間 隔	初産月 齢	出荷月 齢	出荷時 体重
I 肉専用種 繁殖経営 (複合)	家族 経営 複合	頭 繁殖 40	牛房 群飼	-	分離 給与	(ha) 12	ヶ月 12.5	ヶ月 24.0	ヶ月 去勢 8.0 雌 8.0	kg 去勢 253 雌 235

生産性指標													
飼料							人						
作付体 系及び 単収	作付 延べ 面積 ※放牧 利用を 含む	外部化 (種 類)	購入国 産飼料 (種 類)	飼料自 給率 (国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用割 合	生産コスト	労働		経営			
							子牛1頭当 たり 費用合計	子牛1 頭当 たり飼 養 労働時 間	総労働時間 (主たる従 事者の労働 時間)	粗収入	経営費	農業所 得	主たる 従事者 1人当 たり所 得
kg	ha			%	%	割	円	hr	hr	万円	万円	万円	万円
イネ科 主体	29	-	-	83	82	10	409,584	80	2,722 (1,500)	2,350	1,040	1,310	720

(2) 肉牛用 (肥育・一貫) 経営

方式名 (特徴となる取組の概要)	経営概要			生産性指標						
	経営形態	飼養形態			牛					
		飼養頭数	飼養方式	給与方式	肥育開始時月齢	出荷月齢	肥育期間	出荷時体重	1日当たり増体量	
肉専用種肥育経営 (複合)	家族経営複合	頭 90	牛房群飼	分離給与	ヶ月 去勢 8.0 雌 8.0	ヶ月 去勢 26.0 雌 27.0	ヶ月 去勢 18.0 雌 19.0	kg 去勢 750 雌 660	kg 去勢 0.907 雌 0.769	

生産性指標													
飼料							人						
作付体系及び単収	作付延べ面積 ※放牧利用を含む	外部化 (種類)	購入国産飼料 (種類)	飼料自給率 (国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト	労働		経営			
							肥育牛1頭当たり費用合計	牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間 (主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得
kg	ha			%	%	割	円	hr	hr	万円	万円	万円	万円
混播主体	20	コントラクター	-	41	41	10.0	1,119,583	50.5	2,424	6,010	5,374	636	159

IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

1 乳牛

(1) 地域別乳牛飼養構造

地区域名		①総農家戸数	②飼養農家戸数	②／①	乳牛頭数		1戸当たり平均飼養頭数 ③／②
					③総数	④うち成牛頭数	
大空町	現在	戸 413	戸 40	% 9.7%	頭 5,216	頭 2,882	頭 130
	目標		33		5,550	3,038	168
合計	現在	413	40	9.7%	5,216	2,882	130
	目標		33		5,550	3,038	168

(2) 乳牛の飼養規模の拡大のための措置

畜産クラスター計画等に基づく牛舎等施設整備及び機械装置等の導入を推進して、1戸当たりの成牛飼養頭数を平成30年度平均72頭から92頭に増やすとともに、牛群検定の推進や優良な種雄牛精液及び受精卵の積極的な活用により、個体生産乳量を平成30年度1頭当たり年平均9,476kgから9,737kgを目標に増加させることで、地域全体の生乳生産量を年間28,900tまで増産を図ります。

さらに、増頭に伴う飼養管理負担を軽減するために、クラスター計画に基づく機械装置等の導入のほか、公共牧場等や哺育・育成センターへの預託、酪農ヘルパーの利用、飼料生産コントラクターやTMRセンター等の外部委託の積極的な活用を図ります。

2 肉用牛

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	地域名	① 総農家 数	② 飼養 農家 戸数	②/①	肉用牛飼養頭数							
					総数	肉専用種				乳用種等		
						計	繁殖 雌牛	肥 育 牛	そ の 他	計	乳 用 種	交 雑 種
		戸	戸	%	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
肉専用種繁殖経営	大空町	現在	413	37	9.0%	1,830	1,830	1,830				
		目標	/	34	/	2,204	2,204	2,204				
	合計	現在	413	37	9.0%	1,830	1,830	1,830	0	0		
		目標	/	34	/	2,204	2,204	2,204	0	0		
	現在	目標	/	/	/							
		目標	/	/	/							
肉専用種肥育経営	大空町	現在	413	3	0.7%	1,950	1,950		1,399	551		
		目標	/	3	/	2,378	2,378		1,682	696		
	合計	現在	413	3	0.7%	1,950	1,950	0	1,399	551		
		目標	/	3	/	2,378	2,378	0	1,682	696		
	現在	目標	/	/	/							
		目標	/	/	/							
乳用種・交雑種肥育経営	大空町	現在	413	15	3.6%	1,022				1,022	1,022	
		目標	/	12	/	1,218				1,218	1,218	
	合計	現在	413	15	3.6%	1,022				1,022	1,022	
		目標	/	12	/	1,218				1,218	1,218	
	現在	目標	/	/	/							
		目標	/	/	/							

(2) 肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

畜産クラスター計画等に基づく牛舎等施設及び機械装置等の導入を推進し、効率化・省力化を図るとともに、町内和牛生産改良組合で産まれた優良な繁殖雌牛の地域内保留や地域外からの外部導入により1戸当たりの繁殖雌牛飼養頭数を平成30年度平均49頭から66頭まで増やすことで、町内産和牛素牛生産頭数の増加及び町内肥育農家における町内産素牛の購入を促進し、肉専用種頭数を現状3,780頭から4,582頭を目標に拡大します。

乳用種肥育についても、搾乳牛の増頭に伴って増加した乳用種雄子牛を町内で肥育・枝肉出荷することで増産を図ります。

和牛繁殖牛の増加に伴って増える管理労働の負担については、作業の機械化を図るとともに、公共牧場等の利用及び預託を推進し、軽減を図ります。

V 飼料の自給率の向上に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在	目標（令和12年度）
飼料自給率	乳用牛	68%	68%
	肉用牛	11%	33%
	合計	49%	55%
飼料作物の作付延べ面積		2,385ha	2,508ha

2 具体的措置

- 草地及び飼料畑の集積を進めて効率的な利用を図るとともに、草地整備や草地改良、草地更新等を含めた植生改善の取り組みを推進します。また、優良品種の導入や機械装置の導入等の取組を推進し、省力化・効率化及び生産性の向上を図ることで、牧草単収を3,800kg/10aから4,200kg/10aへ、デントコーンの単収を5,860kg/10aから5,970kg/10aへ増加させます。
- 飼料生産コントラクター及びTMRセンターを活用した作業効率及び品質の安定した飼料生産を推進するとともに、未利用草地の活用や畑作農家のほ場借入、他作物からの転換も図り、デントコーンの作付面積を558haから834haへ増加させます。
- イアコーンサイレージ等の濃厚飼料の生産を推進する。
- 地域内の公共牧場や放牧草地を有効的に活用して、乳用牛育成及び肉用繁殖牛の放牧を推進して飼料費の低減を図ります。
- 町内水田農家から生産される稲わらを、肥育用飼料として有効に活用することで肥育経営における飼料自給率の向上を図ります。

VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

生乳の流通については、生産者団体による的確な生産計画や公正かつ適正な生乳取引を推進するとともに、生乳の広域流通の進展を踏まえ、集送乳の効率化を推進します。

2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛(肥育牛)の出荷先

区分	現在（平成30年度）				目標（令和12年度）			
	出荷頭数 ①	出荷先		②/①	出荷頭数 ①	出荷先		②/①
		道内 ②	道外			道内 ②	道外	
肉専用種	頭 651	頭 51	頭 600	% 8%	頭 790	頭 288	頭 502	% 36%
乳用種	1,006	1,006		100%	1,220	1,220	0	100%
交雑種	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,657	1,057	600	64%	2,010	1,508	502	75%

(2) 肉用牛の流通の合理化

町内の黒毛和種繁殖経営と和牛肥育経営の連携及び町内酪農家で生産される乳用種雄子牛の町内育成・肥育・枝肉出荷によって、黒毛和種及び乳用種における素牛生産から肥育牛枝肉出荷までの地域内一貫生産体制の推進を図ることで、生産履歴の確かな消費者に信頼される町内産牛肉のブランド力を高めるとともに、町内産牛肉の地元加工を増やすことで、町内にある食肉処理場の稼働率の向上、牛枝肉の生体搬入から枝肉搬入による牛肉搬送の効率化及び町内産牛肉の地産地消を進めていきます。

VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

1 家族経営体の維持・発展のための取組

酪農及び肉用牛生産は、1経営体における生産額が取り分け大きく、地域経済・社会の活性化への貢献度合いも大きいことから、生産量をより一層維持・発展させるための取組を推進していきます。

2 新型コロナウイルス感染症等を踏まえた業務継続に向けた取組

酪農・畜産業及びこれらの関連産業は、食料の安定供給に重要な役割を担っていることを踏まえ、新型コロナウイルス感染症等に対する予防対策の徹底はもとより、万が一感染者が発生した場合においても、優先的に実施する業務の継続が可能となるよう、生産者や生産者団体、流通事業者、飼料製造業者等の連携による体制の構築を推進します。

3 需要創出に向けた取組

今般の新型コロナウイルス感染症の影響等は、生産基盤の維持・発展を図るためにも、需要あつての生産活動であることが再認識されたことから、安定的な需要が確保されるよう関係者における緊密な連携構築を促進します。

4 計画達成に向けた関係機関・団体の役割

本計画に盛り込まれた取組は、生産者団体、生産者その他の関係者と緊密に連携・協力し、計画的に推進します。

5 計画の進行管理と評価

町は、本計画の策定後、計画に定めた取組の着実な実施と目標の達成のため、その推進状況や関係者による取組の実施状況について、随時把握し、進ちょく管理を行います。

また、その過程で明らかとなった、取組の効果や新たな課題等を踏まえ、必要に応じて取組の見直しや改善を行います。